

シラバス参照

科目名	薬理学A
配当年次	2年次
開講期間	後期
単位数	2
担当教員	荻原 政彦(オギワラ マサヒコ) 岡崎 真理(オカザキ マリ)
期間・曜日・時限・教室	後期 木曜日 2時限 10-302

※	
授業の目的・目標	<p>授業の概要：中枢神経系や免疫系に作用する医薬品の薬理(薬理作用、機序、おもな副作用)および臨床適応を取り扱う。 授業の目的：中枢神経系や免疫系に作用する薬の効くプロセスについて、生体の機能と薬効がどのように関係しているか、また、副作用についても、薬効との関連を修得する。 修得できる力：①知識・理解 到達目標：中枢神経系や免疫系に作用する医薬品の薬理(薬理作用、機序、おもな副作用)および臨床適応を通して、疾病の病態・薬物治療に関する基本知識を修得し、医薬品の適正使用に関する基本事項を修得する。</p>
準備学習等の指示	授業開始前には必ず講義スケジュールにより当日の授業内容を確認し、授業終了後には必ず教科書・資料等により、当日の授業内容のポイントを再確認して下さい。
講義スケジュール	<p>1 中枢神経系1 中枢神経系の構造と機能について説明できる。神経系の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬物(薬理・薬物動態)の関連を概説できる。 [C7-(1)-④-1], E2-(1)-④-1]] (岡崎)</p> <p>2 中枢神経系2 中枢神経系の伝達物質及び受容体について説明できる。神経系の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬物(薬理・薬物動態)の関連を概説できる。 [C7-(2)-①-1,-2], E2-(1)-④-1]] (岡崎)</p> <p>3 中枢神経系3 全身麻酔薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。 [E2-(1)-③-1, -④-1]] (岡崎)</p> <p>4 中枢神経系4 催眠薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。 [E2-(1)-③-1, -④-1]] (岡崎)</p> <p>5 中枢神経系5 てんかんについて、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 [E2-(1)-③-7, -④-1]] (岡崎)</p> <p>6 中枢神経系6 Parkinson(パーキンソン)病について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 [E2-(1)-③-9, -④-1]] (岡崎)</p> <p>7 中枢神経系7 統合失調症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 [E2-(1)-③-4, -④-1]] (岡崎)</p> <p>8 中枢神経系8 うつ病、躁うつ病(双極性障害)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 不安神経症(パニック障害と全般性不安障害)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 [E2-(1)-③-5, -6, -④-1]] (岡崎)</p> <p>9 中枢神経系9 麻薬性鎮痛薬、非麻薬性鎮痛薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)について説明できる。これらの臨床適用(WHO三段除痛ラダーを含む)を説明できる。 [E2-(1)-③-2, -④-1, -(7)-⑨-1,-2]] (岡崎)</p> <p>10 中枢神経系10 認知症(Alzheimer(アルツハイマー)型認知症、脳血管性認知症等)、脳血管疾患(脳内出血、脳梗塞(脳血栓、脳塞栓、一過性脳虚血)、くも膜下出血)、片頭痛について、治療薬や中枢興奮薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 [E2-(1)-③-3,-8,-10,-11], -④-1]](荻原)</p> <p>11 免疫薬理1 免疫・炎症・アレルギーに関与する生理活性物質(オータコイド、サイトカイン、増殖因子)の生理活性および作用機構について概説できる。 [C7-(2)-③-1,-2]] (荻原)</p> <p>12 免疫薬理2 アレルギー治療薬(抗ヒスタミン薬、抗アレルギー薬等)の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適応を説明できる。代表的な薬物の基本構造と薬効(薬理・薬物動態)の関連を概説できる。 [E2-(2)-②-1, -④-1]] (荻原)</p> <p>13 免疫薬理3 アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、アレルギー性鼻炎、アレルギー性結膜炎、花粉症、消化管アレルギー、気管支ぜん息、アナフィラキシーショックなどのアレルギー疾患に用いられる治療薬治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 [E2-(2)-②-3,-4,-5,-6], -④-1]] (荻原)</p> <p>14 免疫薬理4 抗炎症薬(ステロイド性および非ステロイド性)および解熱性鎮痛薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適応を説明できる。 [E2-(2)-①-1,-2,-3], -④-1]] (荻原)</p> <p>15 免疫薬理5</p>

	免疫抑制薬、自己免疫疾患治療薬および臓器移植領域の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適応を説明できる。 [E2-(2)-(2)-2,-7,-8,-9,-4-1,-(3)-1-1,-2,-3]](荻原)
教科書	医療薬学・最新薬理学 第10版(廣川書店)、プリント(国試過去問題など)
参考文献	医療薬学Ⅱ(スタンダード薬学シリーズⅡ-6薬の作用と体の変化および薬理・病態・薬物治療(1)および薬理・病態・薬物治療(2)(東京化学同人)、NEW薬理学改訂7版(南江堂)
授業の方法	講義形式でスケジュールに沿って実施します。
成績評価方法	1. 評価方法:筆記試験、2. 割合:定期試験100%、3. 評価基準:学生便覧に定める出席を最低基準として、定期試験の設問に対する理解度に応じて評価する。
オフィスアワー	講義当日の3~5限 (講義時間・会議時間は除く)
居室	荻原:非常勤講師室、岡崎:21-510
ホームページ	
その他特記事項	1.[SBOs]が記載されている項目は、文部科学省の改訂モデルコアカリキュラムに準拠した内容である。 2.この講義は、生理学A,B、解剖学、細胞生理学、免疫学、基礎薬理学と密接に関連するため、それらの理解を深めておくことが重要です。
添付ファイル	